

書評

坂井建雄, 松村譲児 監訳

プロメテウス解剖学アトラス
解剖学総論/運動器系

千里リハビリテーション病院副院長

吉 尾 雅 春

『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系』, まさに理学療法士をはじめとする運動機能に関わる職種のために誕生した解剖学書だと思います。なぜか? それは本書を開いてみればわかります。とにかく開いてみてください。近くに書店がなければ, 医学書院のホームページ(<http://www.igaku-shoin.co.jp/prometheus/index.html>)をご覧ください。とりあえず, イメージは伝わります。

まず何よりも, 図がとてもきれいで見やすいのが特長です。画家の技量もさることながら, コンピュータを駆使した図は, 私たちの目を間違いなく引きつけます。また, 何層かに分けて三次元的に描画されているため, 構造の奥行

きを理解することを容易にしています。さすがドイツ生まれの解剖学書, という出来映えです。原書が発刊年に「ドイツの最も美しい本」として認定されたのも頷けます。

『プロメテウス解剖学アトラス』がこれまでの系統解剖学書と大きく違うことのひとつとして, 決して身体構造全体をただ網羅した解剖学書を意図していないということが挙げられます。解剖を学ぶ学生, あるいは臨床家たちがある課題を理解しやすいように, メリハリをつけた誘導を行っているのです。図示だけでよいところは解剖学アトラスらしく図を多用して導き, 解説が必要な部位・構造については基礎から臨床に至るまで, 文字情報および図・写真双方で

突っ込んだ説明を展開しています。

特に理学療法士にとって嬉しいことは, 随所に運動学的視点から解説を加えていることです。解剖学書であるにもかかわらず, てこの原理などを用いて興味深い運動学的説明が展開されています。しかも, それらの展開には簡単なものから複雑なものへという進度を感じることができるのです。このように詳細で優れた運動学的説明を加えた解剖学書は他にありません。

解剖学と運動学, 理学療法士や作業療法士にとっては切っても切り離せない最重要領域なのに, なぜか教科書も講義も別々。そのような常識を打ち破って, 系統解剖学の中に臨床解剖学や運動学, 運動力学的解説が随所に, かつ詳細に述べられた, まさに夢の書だと思います。

〔A4変型 頁560 2007年
定価12,600円(本体12,000
円+税5%) 医学書院刊〕